

二〇二四年度 東京藝術大学 音楽学部 入学試験(問題・解答) 用紙  
実施日時: 二〇二四年二月二十六日(月) 九時三〇分〜十一時三〇分(二時間〇〇分)

科 目	学 科 名	受験生記入欄	(ア)	(イ)
国 語	楽 理 科	受験番号		
六枚のうち一枚目				

第一問 次の文章は、ドイツ文学研究者・通訳の相澤啓一による「異文化コミュニケーションにおける通訳者」(『月刊言語』一九九七年八月、大修館書店)の一部です。これを読んで以下の問いに答えなさい。

この部分につきましては、著作権法上の関係から掲載することができません。

二〇二四年度 東京藝術大学 音楽学部 入学試験 (問題・解答) 用紙  
実施日時：二〇二四年二月二十六日(月) 九時三〇分～十一時三〇分 (二時間〇〇分)

科 目	学 科 名	受験生記入欄	(ア)
国 語	楽 理 科	受験番号	(イ)
六枚のうち二枚目			

この部分につきましては、著作権法上の関係から掲載することができません。



二〇二四年度 東京藝術大学 音楽学部 入学試験 (問題・解答) 用紙  
実施日時: 二〇二四年二月二十六日(月) 九時三〇分〜十一時三〇分 (二時間〇〇分)

科目	学 科 名	受験生記入欄	(ア)
国 語	楽 理 科	受験番号	(イ)
六枚のうち三枚目			

この部分につきましては、著作権法上の関係から掲載することができません。

科目	学科名	受験生記入欄
国語	楽理科	受験番号
六枚のうち四枚目		
		(ア)
		(イ)

問一 文中の(ア)〜(オ)のカタカナを、文意に合う漢字になおしなさい。

問二 文中の二重傍線部「(a) トートロジー」、「(b) テーゼ」という言葉の意味について、文脈に即したかたちで簡潔に説明しなさい。

問三 文中の傍線部(1)「異文化」を語ることが、せつかく可能になりかけたカルチャー・ショックを<sup>いんき</sup>慥に抑圧してしまう自己防衛・秩序維持の構造を持っている」とはどういうことか、文意に即して説明しなさい。

問四 文中の傍線部(2)「異文化間コミュニケーション」ないし「異文化理解」とは「文化」の本質的構成要素とも言える自明の行為」であるとはどういうことか、文意に即して説明しなさい。

問五 文中の傍線部(3)「異文化性」という視点が、特定の文化(例えば日本文化)の特殊性を強調し、日欧の差異を固定しようとするような文脈で語られる限り、通訳行為にとって異文化性の問題は二次的問題に過ぎない」のはなぜか、説明しなさい。

問六 筆者の持っている「通訳」と「翻訳」に対する考え方(特にその相違点)について、あなたの考えを述べなさい。  
(二〇〇字以内)

二〇二四年度 東京藝術大学 音楽学部 入学試験(問題・解答) 用紙  
実施日時: 二〇二四年二月二十六日(月) 九時三〇分〜十一時三〇分(二時間〇〇分)

科目	学 科 名	受験生記入欄	(ア)	(イ)
国 語	楽 理 科	受験番号		
六枚のうち五枚目		番		

第二問 次の文章は、『源氏物語』「須磨」の巻の一節です。父桐壺院の崩御後、敵対勢力の圧力の下で失脚した光源氏(文中では「大将」「この殿」など)は、正式な流罪を避けるかたちで自ら須磨(現在の兵庫県神戸市)へ退去し、京の親しい人々とかろうじて手紙をやり取りしながら孤独な日々を送っています。そこに任地の太宰府(現在の福岡県太宰府市)から京に向かう途中の太宰大弐(文中では「大弐」「帥」など)とその北の方、息子の筑前守、源氏と交流があった五節の君をはじめとする娘たちが通りかかるのが、左の文章の場面です。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

この部分につきましては、著作権法上の関係から掲載することができません。

【語注】

○大弐―太宰府の次官。 ○綱手ひき過ぐる―「綱手」は船を曳く綱。船で移動している縁による表現。「須磨を通り過ぎる」の意。 ○さるべきかれこれまで来向ひてあまたはべれば―大勢の人々が、大弐の帰京を須磨まで迎えにやっ  
て来たので、の意。 ○御返りもさやうになむ―大弐への返事も同様の文面であった。 ○駅の長にくしとらする人も  
ありけるを―太宰府に流罪となった菅原道真が、明石の駅の長に詩を与えた故事を指す。

二〇二四年度 東京藝術大学 音楽学部 入学試験 (問題・解答) 用紙  
実施日時: 二〇二四年二月二十六日 (月) 九時三〇分～十一時三〇分 (二時間〇〇分)

科 目	学 科 名	受験生記入欄	(ア)
国 語	楽 理 科	受験番号	(イ)
六枚のうち 六枚目		番	

問一 文中の傍線部(ア)・(オ)の意味を、文脈に合うように説明しなさい。

問二 文中の傍線部(a)・(b)を、主語・目的語に留意して現代語に訳しなさい。

問三 文中の波線部「憚りはべる事どもはべりて」「聞こえを思ひて」は、どのような状況に対する記述となっているか、説明しなさい。

問四 五節の君の歌「琴の音にひきとめらるる綱手縄たゆたふ心君しるらめや」と、源氏の歌「心ありてひきての綱のたゆたはばうち過ぎましや須磨の浦波」の贈答から読み取れる、両者の心の様子を説明しなさい。



二〇二四年度 東京藝術大学 音楽学部 入学試験(開題・解答)用紙  
 実施日時：二〇二四年二月二十六日(月) 九時三〇分～十二時三〇分(二時間〇〇分)

国語 二枚のうち二枚目	科目名 楽理科	受験生記入欄 受験番号 番	(ア)	(イ)
----------------	------------	---------------------	-----	-----

第二問

問一

ア	イ	ウ	エ	オ

問二

a	b

問三


問四
